栽培情報１１月号
～麦の播種について～

令和８年 11 月2日
JA みづま
久留米普及指導センター

１　排水対策

麦類は湿害に弱く、排水不良田では根傷みや生育ムラ、枯熟れ等が生じやすくなります。安定生産に向けて、周囲溝や枕地作溝等の表面排水と本暗きょや弾丸暗きょによる地下排水を組み合わせて、排水対策を徹底しましょう。表面排水は、枕地で滞水しないよう、うね溝を排水口までつなぎましょう。なお、麦作時に施工した周囲溝や弾丸暗きょは、大豆作時にそのまま活用できます。

２　土づくり

麦類（特に大麦・はだか麦）は酸性に弱く、土壌 pH が低いと収量・品質が低下します。近年、土壌 pH が低いほ場が散見されます。下表を参考に土壌改良資材（石灰質）を施用し、麦の高品質・安定生産に努めましょう。一年の中で、水稲前・大豆前は土壌改良資材を施用する時間を取りにくいため、麦前に施用しましょう。

また、地力維持や人と環境にやさしい農業の推進のため、稲わらは焼却せずにすき込みましょう。

施用効果	資材名	施用量の目安 （ｋｇ／10a）
酸度矯正	生石灰	120
	消石灰	160
	ミネラルＧ	200

３　種子消毒

大麦・はだか麦は病害対策、小麦は病虫害対策として種子消毒を徹底しましょう。

小麦はベンレートＴコートとアドマイヤー水和剤の粉衣を基本としますが、過去にヤギシロトビムシが多発したほ場はベンレートＴコートとクルーザーFS30 の組合せにしましょう。

品種	対象病害虫	薬剤名	処理方法
イチバンボシ シロガネコムギ はるしずく	斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートＴコート	種子 10kg に薬剤 50g を粉衣
シロガネコムギ	ヤギシロトビムシ **（小麦のみ）**	アドマイヤー水和剤	種子 10kg に薬剤 15g を粉衣
		クルーザーFS30	種子 10kg に薬剤 60ml を塗沫

※ベンレートＴコートとクルーザーFS30 を使用する際は、先に「クルーザーFS30」を塗沫処理し、乾燥させた後に、「ベンレートＴコート」を処理します。

※クルーザーFS30 は処理薬量が少ないため、塗沫処理しづらい場合は、あらかじめ処理薬量と同量程度の水を小麦種子になじませておく（湿らす程度）と塗沫処理がしやすくなります。（注意:クルーザーFS30 原液を水で薄めないでください。）

４　施肥

品種	基肥　（kg/10a）	
	ちくごのめぐみ 444	
	水稲あと	大豆あと
イチバンボシ	３０	２０
シロガネコムギ	４０	２０
はるしずく	４０	２０

５　播種時期と播種量

適正な生育の下、収量・品質を安定させるとともに、効率的な収穫・荷受けが行えるよう適期かつ適正播種に努めてください。

品種	播種適期	播種量（kg/10a）	
		水稲あと	大豆あと
イチバンボシ	１１月１５～２５日	6kg	5kg
シロガネコムギ	１１月２０～３０日	7kg	6kg
はるしずく	１１月２５日～１２月５日	5kg	4kg

※バラ播きは２割増し、粘土質の圃場では１割程度多めに播種する。
※播種深度は２～３㎝程度とする。

６　雑草対策

播種前に雑草が多い場合は、耕起前に非選択性除草剤のラウンドアップマックスロードを散布しましょう。播種後の土壌処理除草剤（リベレーター）の除草効果を高めるために、播種前の砕土は細かくし、土が乾いていれば播種後鎮圧しましょう。

	薬剤名	処理時期	10ａ当たり使用量	留意事項
茎葉処理剤	ラウンドアップマックスロード	播種前または 播種後出芽前まで	500ml （水量 50～100L）	・周辺作物への飛散防止を徹底する。
土壌処理剤	リベレーターフロアブル	播種後～麦３葉期まで （雑草発生前～ イネ科雑草１葉期まで）	60～80ml （水量 100L）	・麦の出芽後散布は効果の低下や薬害（特に裸麦、大麦）のおそれがあるので、播種後、早めに散布する。
	リベレーターG （粒剤）	播種後～麦２葉期まで （雑草発生前～ イネ科雑草１葉期まで）	４～５kg	